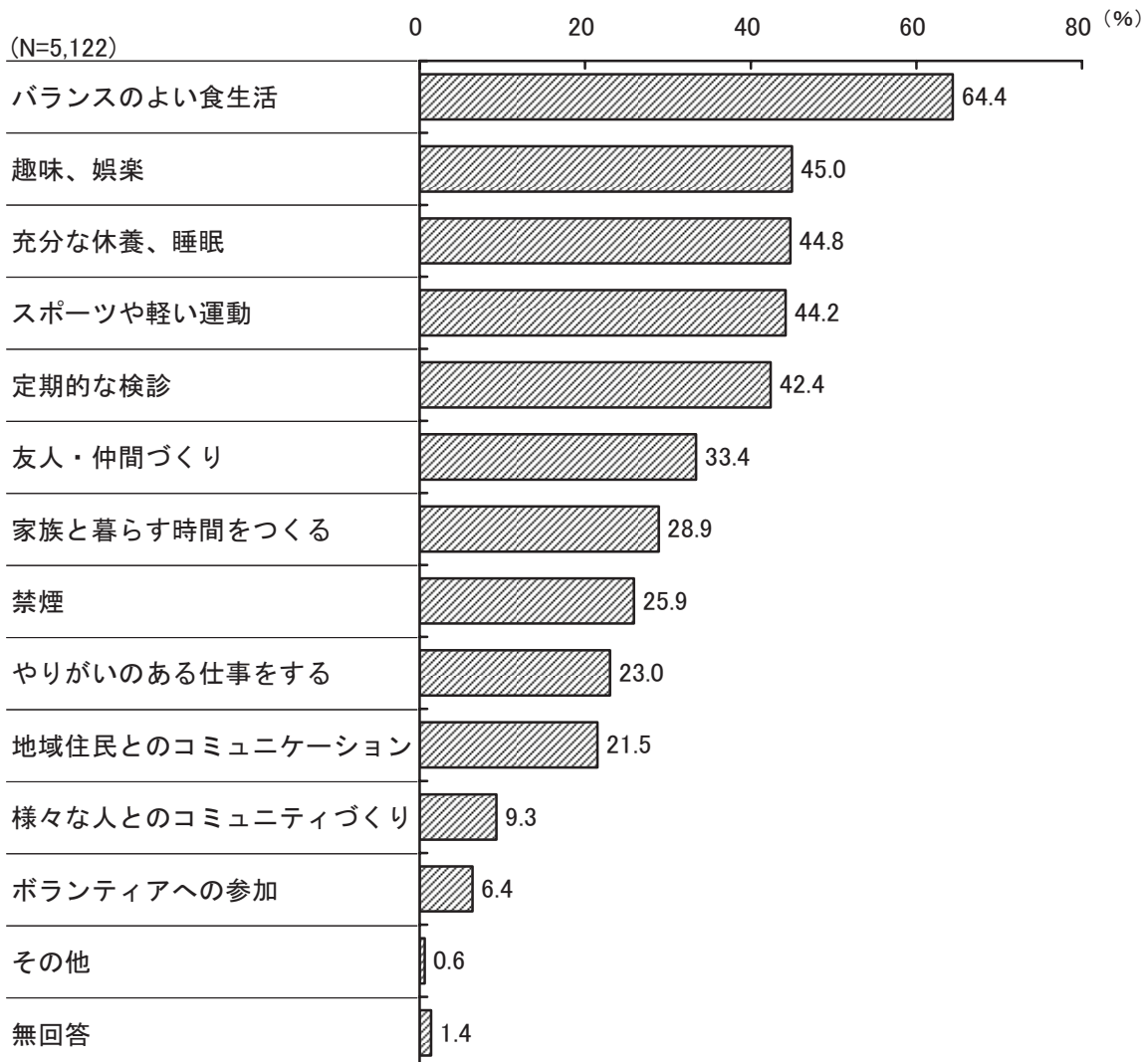


4 安心・安全な暮らしについて

(1) 健康で暮らしていくために、日常生活で心掛けていること

問7 健康でいきいきと暮らしていくために、日常生活で心掛けている、実行していることは何ですか。(〇はいくつでも)



Point!

10歳代、20歳代と30歳代男性は「趣味、娯楽」が、30歳代女性と40歳代以上は「バランスのよい食生活」が1位。

健康で暮らしていくために、日常生活で心掛けていることは、「バランスのよい食生活」が64.4%と6割を超え目立って高くなっている。以下「趣味、娯楽」(45.0%)、「十分な休養、睡眠」(44.8%)、「スポーツや軽い運動」(44.2%)、「定期的な検診」(42.4%)となっている。

●その他内訳●

- 家庭菜園。
- 信仰心を深める。
- 愛犬、ネコと遊ぶ(心のやすらぎ)。
- 散歩。
- 常にプラス思考、感謝の心。
- 生涯学習。

…など

Ⅲ 調査結果

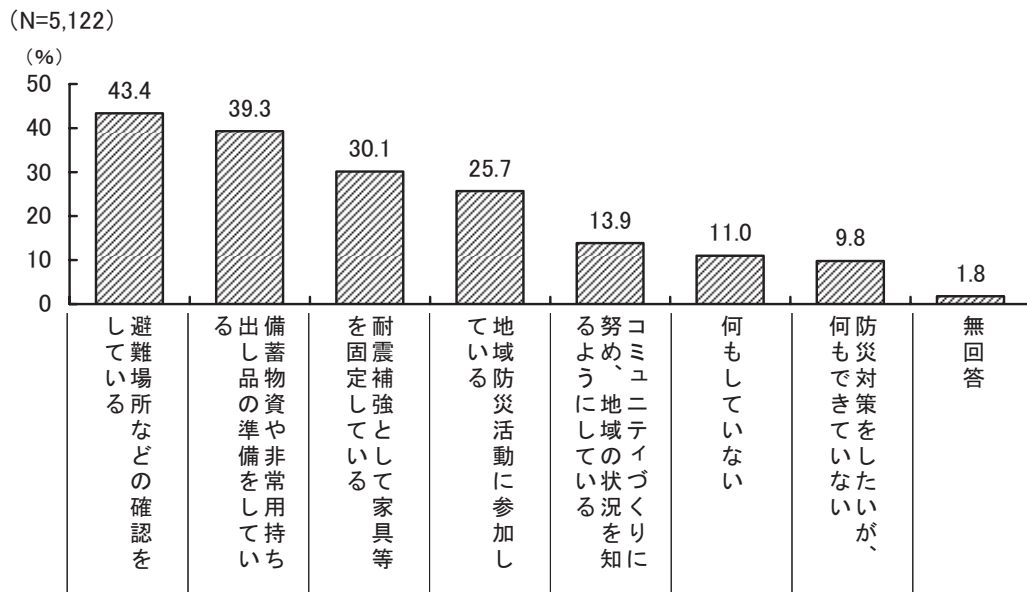
【性・年代別】		(単位：%)					
	調査数	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
10歳代	男性	30	趣味、娯楽 66.7	スポーツや軽い運動 63.3	バランスのよい食生活／友人・仲間づくり 46.7	十分な休養、睡眠 40.0	
	女性	42	趣味、娯楽 64.3	十分な休養、睡眠／友人・仲間づくり 57.1	バランスのよい食生活 42.9	スポーツや軽い運動 35.7	
20歳代	男性	173	スポーツや軽い運動／趣味、娯楽 61.3	バランスのよい食生活／十分な休養、睡眠 44.5	友人・仲間づくり 43.9	家族と暮らす時間をつくる 40.7	
	女性	243	趣味、娯楽 66.3	十分な休養、睡眠 56.8	バランスのよい食生活 52.3	友人・仲間づくり 42.4	家族と暮らす時間をつくる 37.5
30歳代	男性	283	趣味、娯楽 56.5	スポーツや軽い運動 46.6	バランスのよい食生活 45.2	十分な休養、睡眠 41.3	家族と暮らす時間をつくる 37.5
	女性	381	バランスのよい食生活 71.1	十分な休養、睡眠 56.7	趣味、娯楽 45.1	家族と暮らす時間をつくる 44.9	スポーツや軽い運動 35.7
40歳代	男性	281	バランスのよい食生活 56.9	スポーツや軽い運動 47.7	趣味、娯楽 44.1	家族と暮らす時間をつくる 40.2	十分な休養、睡眠 39.1
	女性	387	バランスのよい食生活 71.3	十分な休養、睡眠 51.4	家族と暮らす時間をつくる 43.4	趣味、娯楽 41.3	定期的な検診 37.5
50歳代	男性	426	バランスのよい食生活 57.0	スポーツや軽い運動 48.1	定期的な検診 42.5	趣味、娯楽 39.7	十分な休養、睡眠 37.8
	女性	534	バランスのよい食生活 70.2	スポーツや軽い運動 44.4	趣味、娯楽 43.4	定期的な検診 42.5	十分な休養、睡眠 41.6
60歳代	男性	461	バランスのよい食生活 61.8	スポーツや軽い運動 51.6	定期的な検診 50.5	趣味、娯楽 44.7	十分な休養、睡眠 38.0
	女性	574	バランスのよい食生活 75.1	定期的な検診 52.6	スポーツや軽い運動 49.1	趣味、娯楽 46.3	友人・仲間づくり 40.1
70歳代以上	男性	443	バランスのよい食生活 64.6	定期的な検診 60.5	十分な休養、睡眠 48.1	スポーツや軽い運動 44.7	趣味、娯楽 39.5
	女性	607	バランスのよい食生活 72.5	定期的な検診 62.1	十分な休養、睡眠 49.4	友人・仲間づくり 39.9	スポーツや軽い運動 37.4

性・年代別に上位5つをあげてみると、若干違いがみられる。「趣味、娯楽」は10歳代、20歳代では性別にかかわらず1位で、6～7割を占めている。また、30歳代の男性も「趣味、娯楽」が最も高く、56.5%と6割弱を占めている。30歳代女性と40歳代以降は、「バランスの良い食生活」が6～7割を占めて最も高くなっている。男性では70歳代以上を除いて「スポーツや軽い運動」が2位を占めている。

(2) 防災対策について

① 防災対策として日頃行っていること

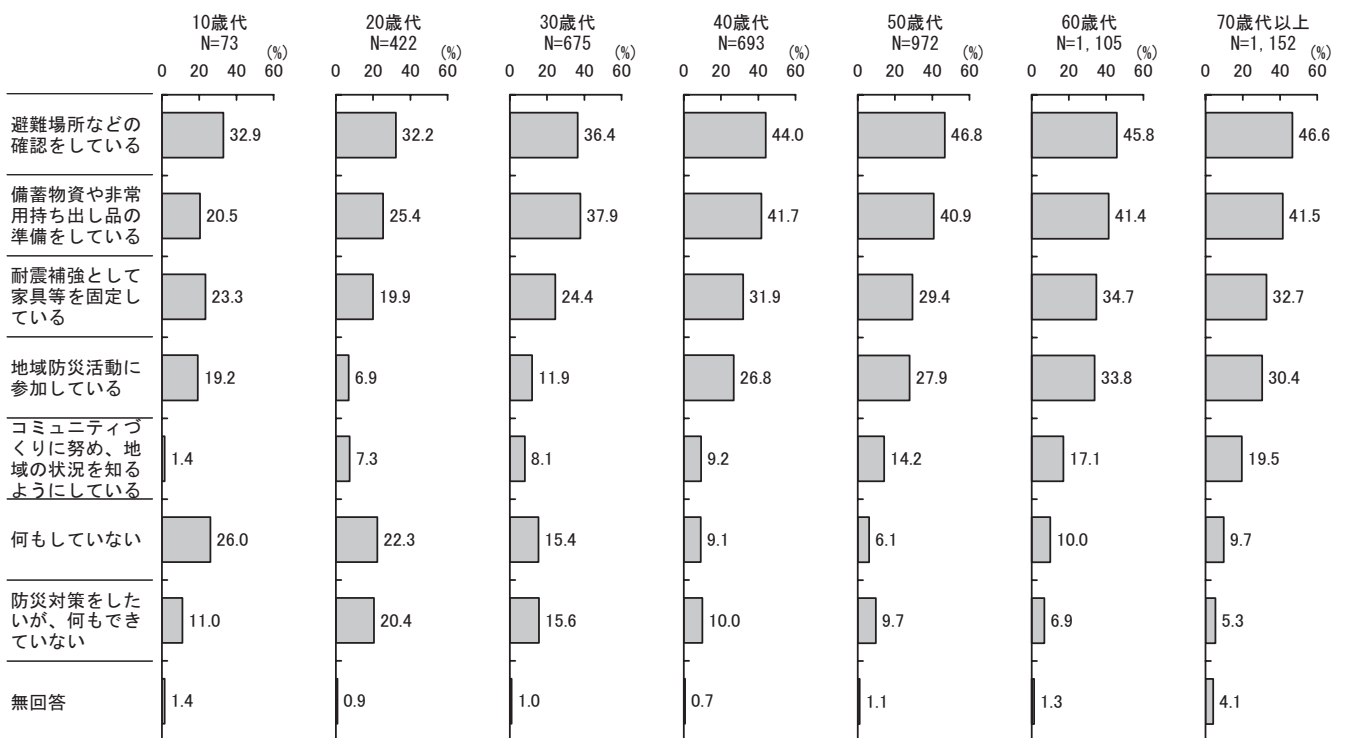
問8 防災対策として日頃あなたが行っていることは何ですか。(〇はいくつでも)



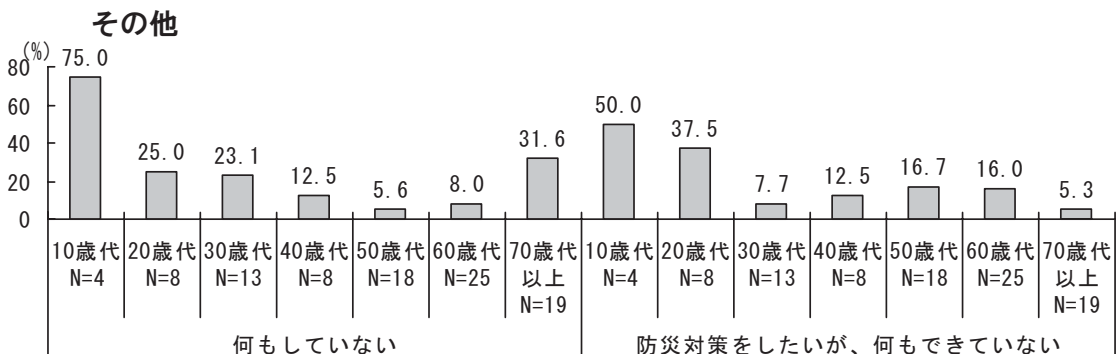
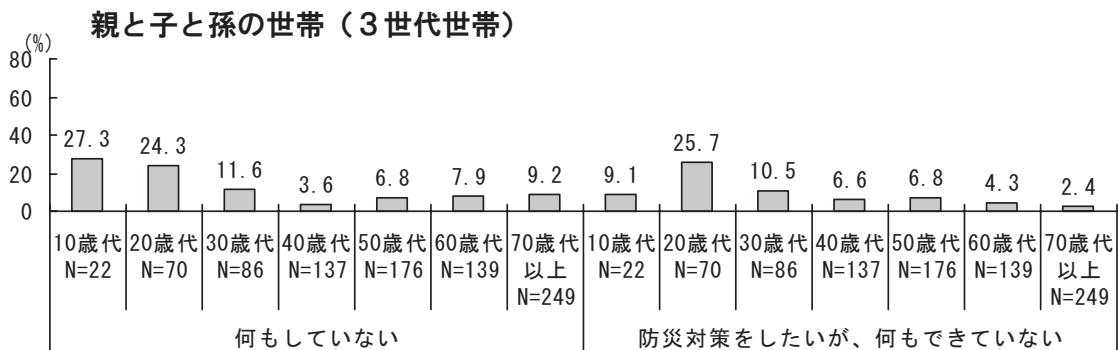
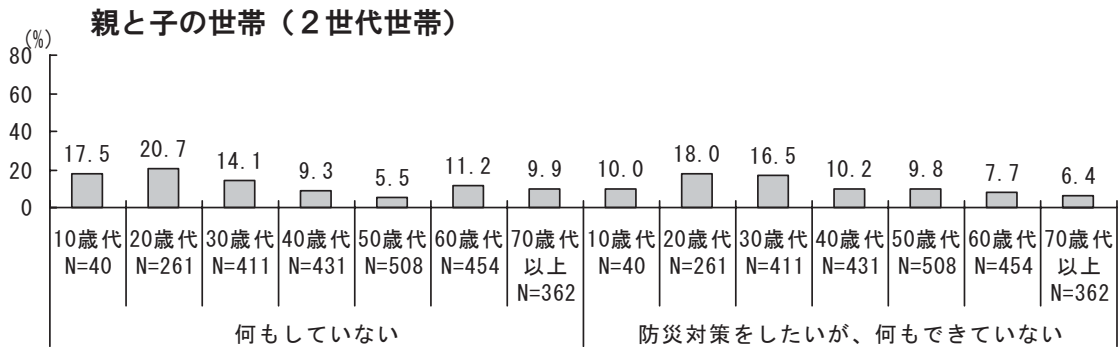
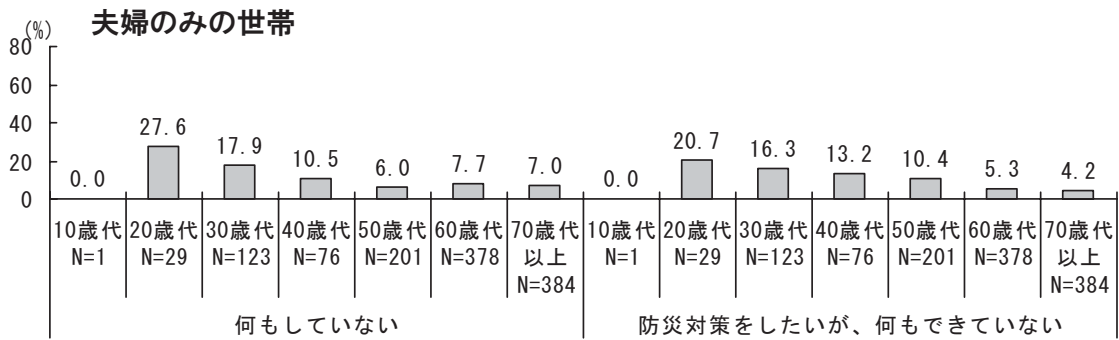
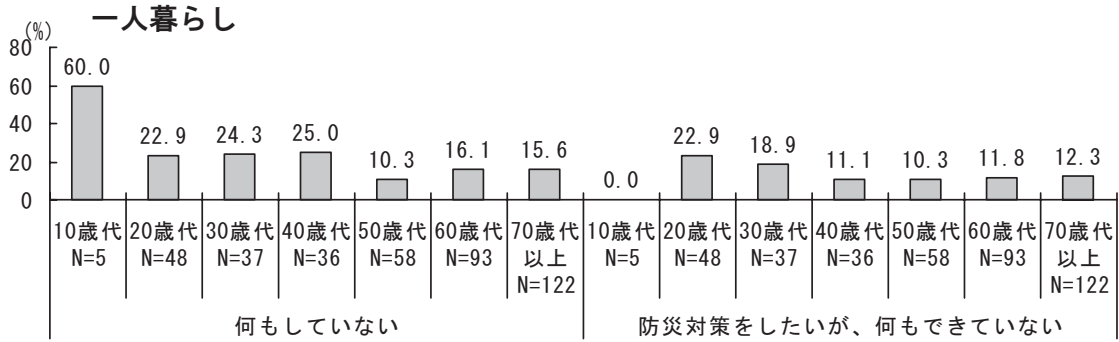
Point!

年代が低いほど「何もしていない」「何もできていない」の割合が高い傾向。

防災対策として日頃行っていることは、「避難場所などの確認を済ませている」が43.4%で最も高く、次いで「備蓄物資や非常用持ち出し品の準備をしている」(39.3%)、「耐震補強として家具等を固定している」(30.1%)となっている。一方、「何もしていない」(11.0%)、「防災対策をしたいが何もできていない」(9.8%)という人は各々1割ほどを占めている。



【世帯構成・年代別 「していない」、「できない」】



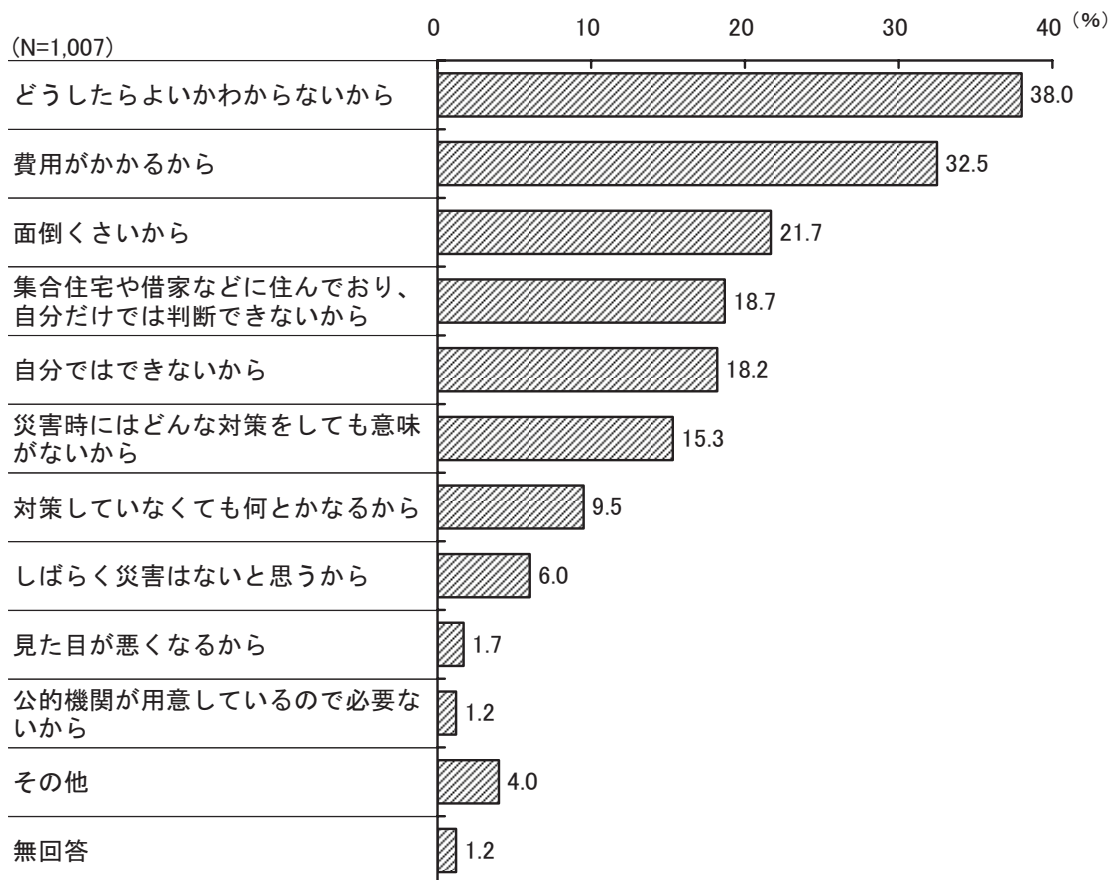
世帯構成・年代別に、防災対策を「何もしていない」、「防災対策をしたいが、何もできていない」をみると、いずれの項目も年代が高くなるほど割合は低くなる傾向で、20歳代、30歳代ではいずれの世帯構成においても「何もしていない」、「防災対策をしたいが、何もできていない」ともに1～3割の回答となっている。

一人暮らしでは回答者数が少なく参考程度となる10歳代を除いてすべての年代で「何もしていない」、「防災対策をしたいが、何もできていない」ともに1割以上の回答となっている。また、「何もしていない」との回答では、親と子の世帯の60歳代と70歳代以上で1割前後、親と子と孫の世帯の60歳代と70歳代以上で1割弱の回答となっている。

②防災対策を行っていない理由

(問8で「6」、「7」と回答された方におたずねします)

問8-1 その理由は何ですか。(○はいくつでも)



Point!

40歳代以下は「どうしたらよいかわからないから」が最も高い。70歳代以上では4割が「自分ではできないから」。

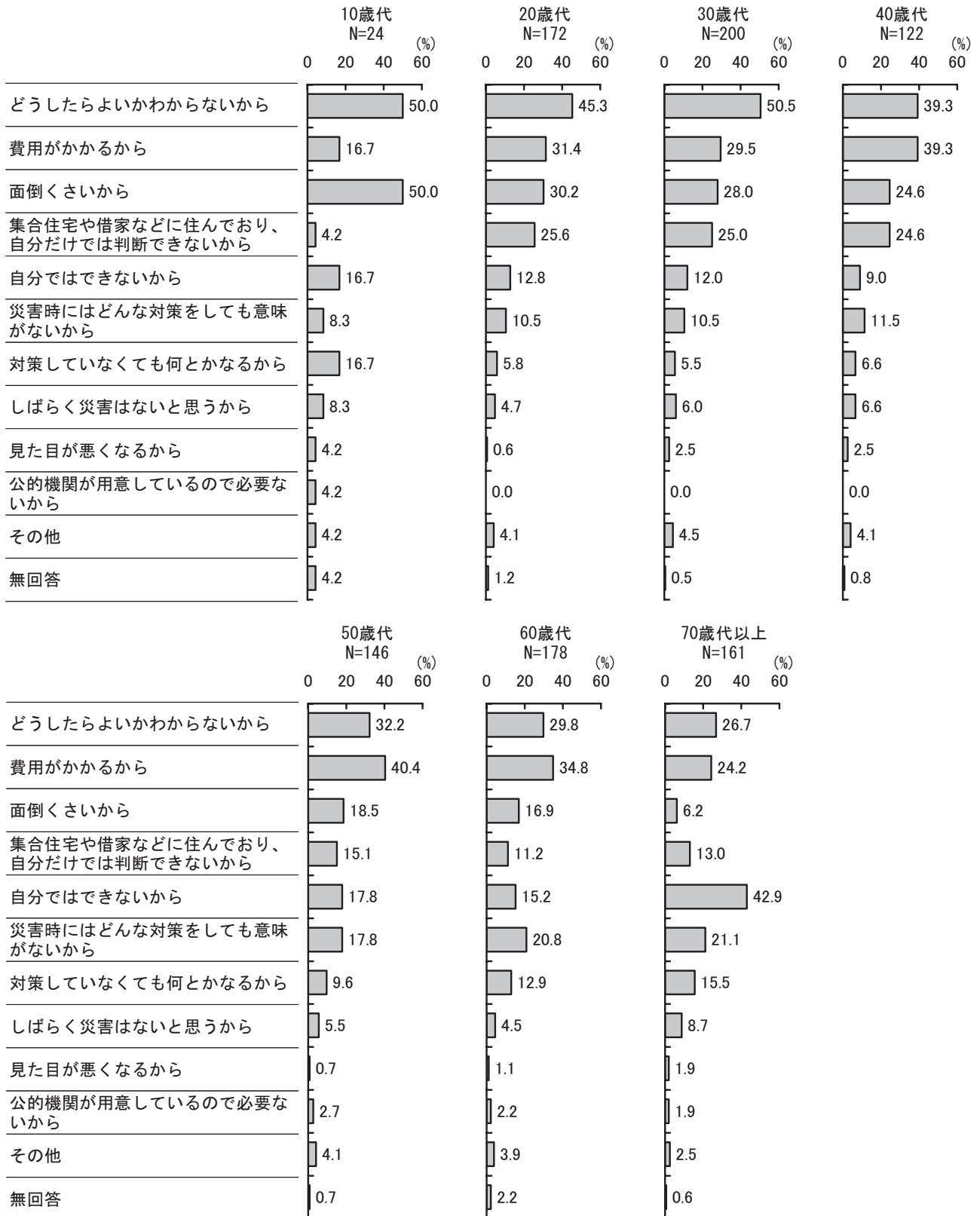
防災対策について「何もしていない」または「防災対策をしたいが何もできていない」と回答した1,007人にその理由について聞いたところ、「どうしたらよいかわからないから」が38.0%で最も高くなっている。また、「費用がかかるから」も3割の人(32.5%)があげている。

●その他内訳●

- 時間がない。
- 忙しくて、防災対策を考える余裕がない。
- 以前は、備蓄物資や非常用持ち出し品を準備していたが、時が過ぎ忘れてしまっている。
- きっかけがない。
- その内とってしまう。
- 親(家族)がやっているのを任せている。
- 気持ちばかりで、つい後まわしになっている。
- 行政がすべてやるべき。
- 共同の建物で、自分の意見が通らない。
- 実家に、ほとんどいないから。
- 実感がないため。
- 常々何か対策をしようと考えているが、行動に移さないまま。
- 人間には宿命というものがあるから。
- 阪神の地震後に建設した家で、補強はしたつもり。作りつけ家具が多い。
- 被災場所を特定できないから(自分がどこで被災するか不明だから)。
- 非常用食品の準備をしても、じきに賞味期限が切れてしまうため、常に備蓄ができない。
- 備蓄物を置くスペースに余裕がない。自宅が多分つぶれて持ち出せない。
- 幼年期から災害には経験があるから。

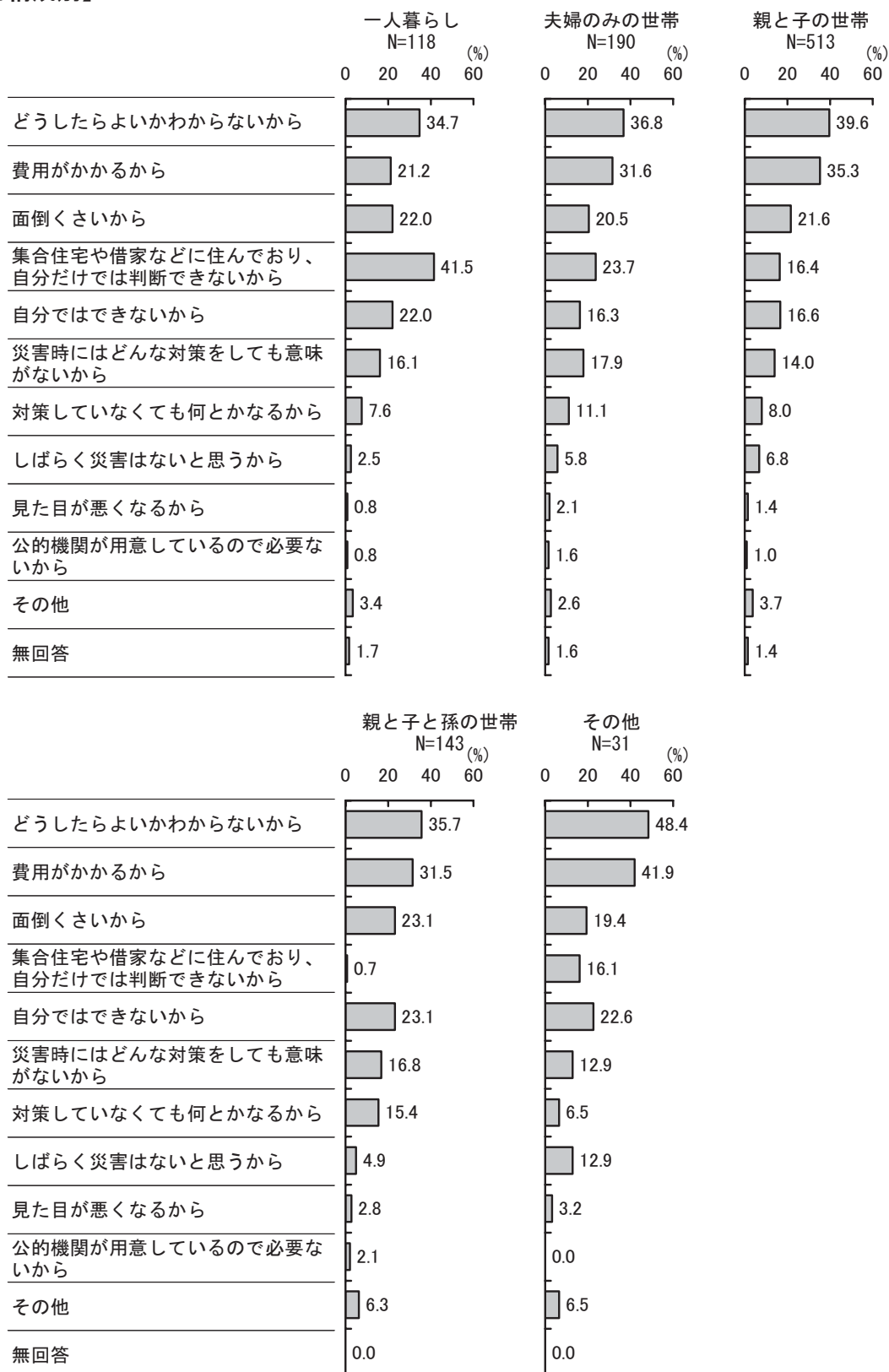
…など

【年代別】



年代別にみると、40歳代以下は「どうしたらよいかわからないから」が最も高く、また10歳代では回答者の半数が「面倒くさいから」(50.0%)とも回答している。「費用がかかるから」は20歳代から60歳代まで3~4割を占めており、20歳代から40歳代までは「集合住宅や借家などに住んでおり、自分だけでは判断できないから」も2割以上の回答となっている。70歳代以上では「自分ではできないから」が4割(42.9%)を占めている。

【世帯構成別】

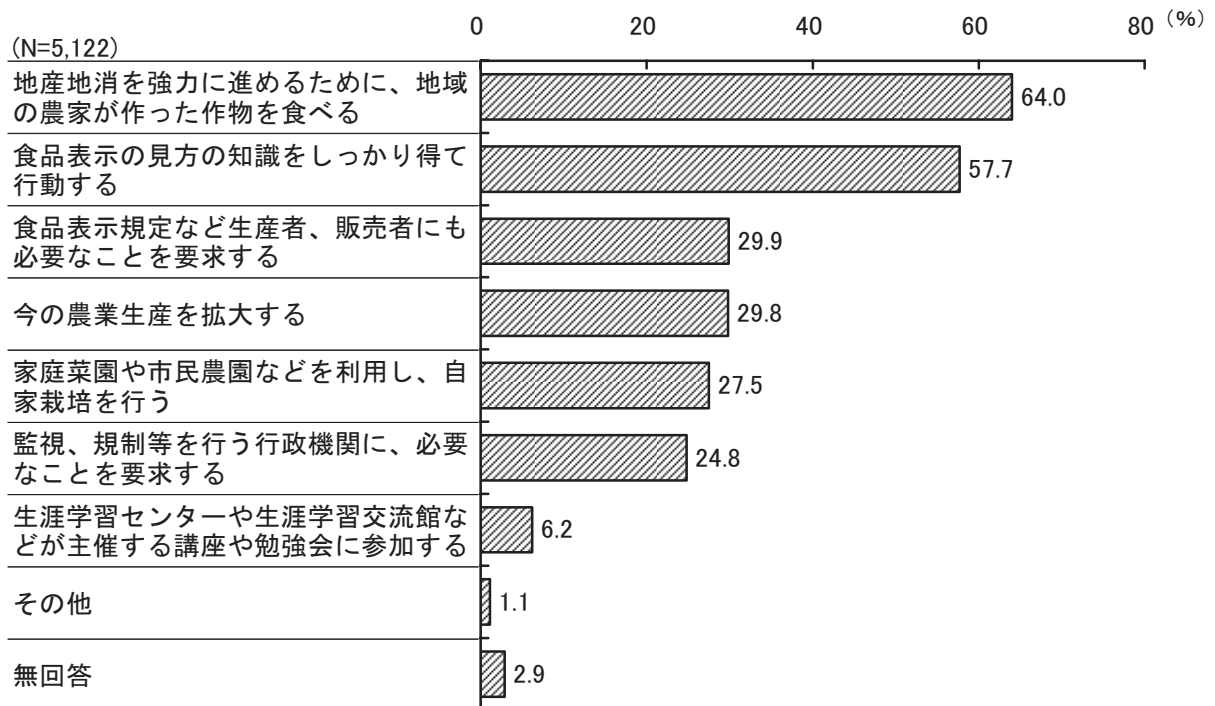


世帯構成別にみると、一人暮らしでは「集合住宅や借家などに住んでおり、自分だけでは判断できないから」が41.5%と4割を占めている。一方、親と子と孫の世帯では0.7%となっている。「費用がかかるから」は夫婦のみの世帯（31.6%）、親と子の世帯（35.3%）、親と子と孫の世帯（31.5%）で3割以上を占めている。

(3) 食品の安全・安心を確保するために自分たちでできること

問9 食品の安全・安心を確保するため、自分たちでできることは何だと思いませんか。

(○はいくつでも)



Point!

10歳代女性と70歳代以上では「食品表示の見方の知識」が最も高く、6割前後。

食品の安全、安心を確保するために自分たちでできることは、「地産地消を強力に進めるために、地域の農家が作った作物を食べる」が64.0%で最も高く、「食品表示の見方の知識をしっかりとって行動する」も57.7%と6割弱となっている。

●その他内訳●

- 原産地や消費期限の表示があっても信用できない!
- 消費者が受身になるのではなく、企業に偽装させない。安全を保障させる社会づくりをする。
- 消費者がすることはない。業者の良心と罰則、監視の強化で安全を確保すべき。
- 外国からの輸入食品については、特に注意が必要。厳重検査必要。
- 関心を持ち続けること。
- 国内の商品の購入。国外の購入を止めれば。(国内の食品は価格が高いが安全第一)
- 食の安全について輸入食品等についての新聞、テレビの情報に注意する。
- 信用できる業者から直接買っている。
- 日本の農業の株式会社化。
- 農家の収入がアップさせることが食品自給率のアップにつながる。
- 農業をする人が、もっと増えるような国のバックアップ体制作りを求める。
- マスコミの言うことを信じすぎない。
- モラルの問題。(高度資本主義に振り回されている)
- 生産加工出荷に携わる人が常に正直で誠意を持って各仕事をするのが第一!!
- 生産者負担の軽減、保障。

…など

Ⅲ 調査結果

【性・年代別】

		調査数	第1位	第2位	第3位
10 歳代	男性	30	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 36.7	食品表示規定など生産者、販売者にも必要なことを要求する/ 監視、規制等を行う行政機関に、必要なことを要求する 33.3	
	女性	42	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 61.9	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 45.2	家庭菜園や市民農園などを利用し、 自家栽培を行う 31.0
20 歳代	男性	173	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 57.8	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 49.7	食品表示規定など生産者、販売 者にも必要なことを要求する 31.2
	女性	243	地産地消を強力に進めるために、地域の農家が作った作物を食べる/ 食品表示の見方の知識をしっかりと得て行動する 58.4		家庭菜園や市民農園などを利用し、 自家栽培を行う 35.0
30 歳代	男性	283	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 52.3	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 49.1	監視、規制等を行う行政機関 に、必要なことを要求する 33.2
	女性	381	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 71.4	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 57.7	家庭菜園や市民農園などを利用し、 自家栽培を行う 36.7
40 歳代	男性	281	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 62.3	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 51.6	食品表示規定など生産者、販売 者にも必要なことを要求する 33.1
	女性	387	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 71.8	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 64.6	食品表示規定など生産者、販売 者にも必要なことを要求する 32.3
50 歳代	男性	426	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 62.0	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 50.2	今の農業生産を拡大する 36.2
	女性	534	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 74.9	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 63.1	食品表示規定など生産者、販売 者にも必要なことを要求する 33.5
60 歳代	男性	461	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 62.5	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 51.6	食品表示規定など生産者、販売 者にも必要なことを要求する 31.2
	女性	574	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 74.4	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 65.3	今の農業生産を拡大する 37.8
70 歳代 以上	男性	443	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 56.2	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 55.5	家庭菜園や市民農園などを利用し、 自家栽培を行う 30.0
	女性	607	食品表示の見方の知識をしっかりと 得て行動する 62.9	地産地消を強力に進めるために、 地域の農家が作った作物を食べる 59.3	家庭菜園や市民農園などを利用し、 自家栽培を行う 31.8

性・年代別にみると、いずれの性・年代においても「地産地消を強力に進めるために、地域の農家が作った作物を食べる」と「食品表示の見方の知識をしっかりと得て行動する」が1位と2位を占めている。10歳代男性と20歳代から60歳代までは「地産地消を強力に進めるために、地域の農家が作った作物を食べる」が最も高く、10歳代男性を除いて5～7割を占めている。10歳代女性と70歳代以上では「食品表示の見方の知識をしっかりと得て行動する」が最も高く6割前後となっている。